

本部委員会合同企画 (講演、施設見学、委員会審議)

5月の本部委員会は、輸送品質向上委員会、利用促進委員会とも本部委員会合同企画として、それぞれ講演、施設見学が開催された。

輸送品質向上委員会 (H26.5.29)



講師：JA全農 打田様



受講状況



平成26年度第2回輸送品質向上委員会では、委員会を3部制とし、時間を延長して実施した。

1. 第1部：講演(利用促進委員会オブザーバー参加企画)

- A. 講師：JA全農 営農販売企画部 営農・技術センター 生産資材研究室 調査役 農学博士 打田 宏様
- B. 演題：「鉄道・トラック輸送におけるリスク管理と新たな対策の提案」

C. 講演の目的

当委員会では、平成26年度の年間テーマ「鉄道コンテナ輸送の輸送品質向上に向けた荷擦れ・荷崩れ対策に関する調査研究と提案」に取り組んでいる。今回の企画は、日本包装技術協会をはじめ数多くの研究発表をされている全農の打田様に講演いただき、専門家としての知見・経験を勉強するものである。

D. 講演の内容

- 1. 輸送包装の現状と課題
 - (1) 鉄道・トラック輸送におけるリスク管理
 - (2) 流通におけるリスク評価
- 2. 新たな対策の開発(振動制御理論をもとに)
 - (1) AC段ボールの開発
 - (2) ACToppの開発

E. 講演の特記すべきポイント

- (1) AC段ボールの開発(集合緩衝包装)
 - a. イチゴなど軽い青果物は大きな加速度を受けることから、積荷挙動解析、イチゴの損傷の品目特性を把握し、AC段ボールを開発した。
 - b. 熊本イチゴ、和歌山イチゴで実用化し量販店か

らのクレームがなくなった。

- c. 箱個々にわずかな緩衝性を付与するため包装コストは殆ど増えない特徴を持つ。
- d. それぞれの付与する緩衝形状については限定していない。
- e. 広く一般工業製品にも利用が可能
【特許第5295686号】



(2) ACToppの開発(Anti-Collapse, Crumble 崩れる)

積荷の上に乗せて、揺れを抑える貨物用制振資材である。路面や輸送車両からの振動は、床から貨物に伝わり、増幅されて積荷は大きく揺れる。特に最上段は大きく揺れるので注意が必要である。これは、長いゴルフクラブの飛距離が大きいことや、地震で高層ビルが大きく揺れるのも同じ原理である。輸送では貨物の最上段では2倍～数倍の揺れを示す。路面からの「入力低減」と積荷の「応答制御」が輸送品質を確保するために必要である。

ACTトップは、高層ビルの耐震対策と同様に振動制御の工学技術を応用して開発した。

【特願2012-152351】



2. 第2部：フォークリフトメーカーからの発表(利用促進委員会オブザーバー参加企画)

フォークリフトメーカーより、荷擦れ・荷崩れ対応への技術的観点からの取組みについて、専門的な見地から発表いただき、情報の共有化を図る内容である。

A. 発表：ユニキャリア株式会社 大地委員

B. 発表内容：「フォークリフトの振動抑制試験結果について」

当委員会において、昨年度第2回委員会において、大地委員より「フォークリフトの振動改善」についての研究開発内容を発表いただいたが、今回は、「振動抑制試験結果」についての発表である。



発表する大地委員

3. 第3部：委員会審議

委員会審議は、年間テーマ及びサブテーマの取組状況について審議され終了した。

利用促進委員会(H26.5.21)



梶ヶ谷(夕)で説明を聞く委員の皆さん



梶ヶ谷(夕)ライナー7番線



隅田川駅概要説明の様子



IPC荷役ホームに入線する列車

平成26年度第2回利用促進委員会は、年間テーマ『鉄道コンテナの利用促進に向けた業種別の利用実態把握・課題の抽出と提案』及びサブテーマ『鉄道コンテナ輸送における養生材の効率的な回収システムについての調査研究と提言』の調査研究の一環として、「業種別の利用実態把握」と「養生材回収の実態把握」を目的とした現地調査のため、梶ヶ谷貨物ターミナル駅と隅田川駅の2つの貨物駅とその周辺の施設を見学し、見学終了後隅田川駅の会議室をお借りして、委員会審議を実施した。

1. 梶ヶ谷貨物ターミナル駅の見学

A. 駅構内の説明

駅本屋上から高田駅長により、駅の概要、川崎市の廃棄物輸送について説明を受けた後、バスで駅構内を見学した。



駅概要を説明される高田梶ヶ谷(夕)駅長

B. 資源物積替施設の見学

梶ヶ谷(夕)に隣接する資源物積替施設を訪問し、プラスチック製包装容器の積み替え作業を見学した。



2階の収集車から1階に設置された「プラスチック製包装容器専用コンテナ」への積み替え作業

2. 隅田川駅の見学

A. 駅構内の説明

駅本屋会議室にて吉田駅長により、駅の概要について資料や映像を用いながら説明を受けた。



駅概要を説明される吉田隅田川駅長

B. (株)飯田町紙流通センター(IPC)倉庫の荷役ホーム見学

荷役ホームに入線した列車から荷降ろしして倉庫に入庫する紙製品について、荷降ろし作業だけでなく、その養生の方法や使用した養生材の回収作業などを見学した。



コンテナの内部まで熱心に見学される委員の皆さん



回収された養生材(隙間充填ボード)

C. 営業サポートセンターの説明

営業サポートセンターの業務の概要について、営業サポートセンターの佐々木所長(現在は関東支社営業部長)より説明を受けた。その後の質疑応答では、参加した委員より活発な質問があった。



説明される佐々木営業サポートセンター所長

3. 委員会審議

A. 年間テーマ『鉄道コンテナの利用促進に向けた業種別の利用実態把握・課題の抽出と提案』

5月に実施した荷主企業へのヒアリングの概要について委員会で報告し、内容について質疑応答を実施した。なお、今回ヒアリングに用いた「ヒアリング調査票」は、前回の委員会で求められた修正を盛り込んだものである

B. サブテーマ『鉄道コンテナ輸送における養生材の効率的な回収システムについての調査研究と提言』

5月に実施した養生材メーカー及び販売会社の計4社に対するヒアリングの概要を報告した。その他、利用運送事業者1社に対するヒアリングの概要と回収している養生材について写真を解説しながら報告した。

今後は、他の利用運送事業者や養生材の処理業者についてのヒアリングを進める予定である。